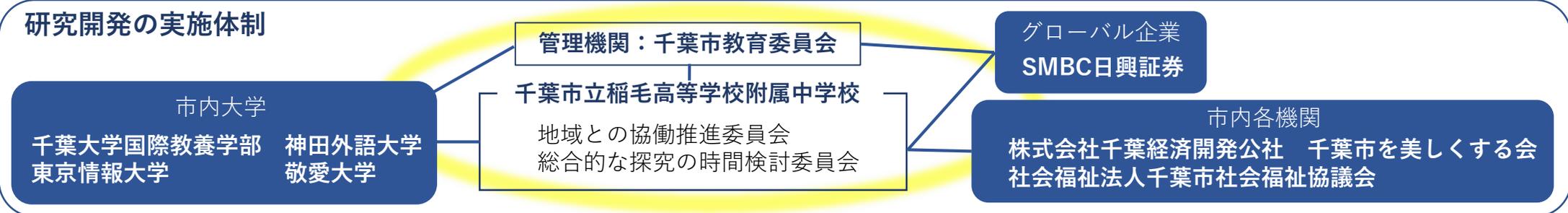


# 2030年の持続可能な地域社会を創生するグローバル・リーダーの育成

## 研究開発の背景

本校は「グローバル・リーダー」の育成を教育目標に掲げ、英語教育及び国際理解教育の先進校として過去にSELHiの指定を受け、先進的な英語教育を実践し、英語によるコミュニケーション能力の育成に大きな成果を挙げてきた。一方、自分の意見を表明したり、相手と粘り強く議論する力や論理的かつ批判的に思考する力、自分たちが住んでいる地域への関心が希薄なことが課題となっている。

## 研究開発の実施体制



## 令和2年度の目標

- ①継続した取組の実施
- ②地域との協働推進委員会を中心とする校内体制の整備
- ③外部連携の促進、コンソーシアムとの協働の促進
- ④探究活動を支える基盤となるICT環境及びプラットフォームの整備
- ⑤新型コロナウイルス感染症への対応、代替案の模索

## 取組状況

- 事業1「千葉市創生プロジェクト」  
第1学年では身近な千葉市を教材として課題設定を行い、フィールドワークを含む調査活動を経てその解決策を提言する活動を実施。成果発表過程で大学教授等から指導・助言を受けた。
- 事業2「SDGsリサーチプロジェクト」  
第1学年12月以降、グローバルな課題と関連付けて、自己の興味関心から主題を設定し、探究活動を実施した。また第2学年では普通科の一部と国際教養科でSDGsに関連したグローバル課題について調査研究する探究活動を行い、英語で発表した。
- 事業3 国際交流  
秋に国際NGOや千葉大留学生を招いての授業を実施した他、2月に韓国の先生方とのオンライン交流を実施した。
- 事業6 グローバル講演会  
3月に東京海洋大学教授小松俊明氏を招いて実施した。
- 事業7 グローバル企業訪問  
コンソーシアムの協力のもと、10月に成田国際空港株式会社への訪問を行った他、3月にSMBC日興証券株式会社とのオンライン交流を実施した。

## 成果と課題

- GPS-Academicの結果や高校魅力化評価システムなどの評価ツールから、他者と協働して課題解決を行う力や態度については高い結果となっている。一方、批判的思考力や論理的に考え、その考えを相手に伝える力を伸ばしていくことが課題となっている。探究活動の計画を再度見直し、こうした力を伸ばしていけるようなカリキュラムへの改善を図っていきたい。
- 運営指導委員会の内容の充実やコンソーシアムを構成する機関の方々との密なコミュニケーションを図ったことで、昨年度よりも各事業の内容が充実した。来年度は、本校の地域的特性である大学との協働をさらに図り、本校生徒が探究の過程で大学の先生からの指導・助言を受けられる環境を一層整えていきたい。
- 研究開発で目指していく方向に着実に向かっていくために、本校で行われている3年間の教育活動でどのような活動が行われ、資質・能力が育成されているのかを視覚化した資料の作成を行っていく必要がある。